

【クレーム情報】

レーヨン製品のシワ加工の消失

レーヨンは、吸湿性が高く水分を吸収しやすい、染色が容易、麻や絹などに良く似た高級感のある素材に加工できるなどの長所を持つ反面、水に濡れると繊維が膨潤して強度が低下するほか、収縮、型崩れ、風合変化などが生じるなどの欠点もある。今回は、本来、レーヨンにはなじまないシワ加工が消失した事例を紹介する。

原因

レーヨンには、本来シワ加工などを行ったとしても、そのままでは形態の保持性がなく、加えて事故品には樹脂による加工処理を行っていない。そのために着用やクリーニング、あるいは蒸気などによる仕上げ処理を行ったことにより加工が消失したものの。

事故の防止対策

レーヨンなど形態の保持性がない素材に対してシワ加工やプリーツ加工を行う場合には、樹脂による加工などを併用してシワやプリーツを固定し、消失しないようにすること。また、クリーニングでは、水分の使用や蒸気による仕上げなどを避けること。

レーヨンの特性

レーヨンは綿や麻と同様にセルロースという分子からできており、木材のなかのセルロース成分を精製して薬品で溶かしたものを、繊維に再生して作られる。

セルロース分子はぶどう糖が一列に結合したもので、綿や麻はこのぶどう糖が2千〜3千個程度結合して一本の長いセルロース分子を作り、多くの部分が規則的に寄り添って配列しているのに対し、レーヨンはぶどう糖が250〜300個程度しか結合しておらず、規則的な配列の部分も比較的少ない。

レーヨンの繊維を拡大すると、複数の微細な繊維（マイクロファイブリル）が集まって一本の繊維を形成する構造になっている。マイクロファイブリル一本一本の間には、規則的な配列の部分が特に少ない非結晶部分があり、また、マイクロファイブリルにも結晶部分と非結晶部分がある。

レーヨンが水洗いで収縮するのは、この非結晶部分に水が入り込み、分子内の結合が切断されるとともに分子内の緊張が緩和されるため。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」でレーヨンを素材として使用している製品の事故を検索すると340件の事故情報が確認できる（7月2日現在）。このうち、レーヨンを主素材とした製品は155件あり、さらに婦人物の製品が130件と圧倒的に多くなっている。

事故の種類は、色泣き、移染、穴あき・破損、収縮、目寄せなど様々だが、レーヨンの特性に起因するところの事故も種々確認することができる。レーヨンを素材とした製品が多くなるこれからの時期に備えるため、事故防止システムを有効に活用するよう希望する。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03 (5362) 7201



▲樹脂による加工を併用していないために着用
やクリーニング処理でシワ加工が消失した



■品 名…婦人アンサンブル
■素 材…本体レーヨン100%

■取扱い絵表示



■処 理 方 法…石油系溶剤によるドライクリーニング、自然乾燥、人体プレス機と蒸気アイロンによる仕上げ。

■事故の状態…生地全体にシワ加工がされていたが、クリーニングによって加工されていたシワが消失してしまっ